

一. 会社、工場プロフィール

ジャトコ株式会社（以下ジャトコと略称、本社：日本静岡県富士市、資本金：299 億円）は、自動車用変速機の専門メーカーであり、1970 年の設立以来、グローバルで累計 1 億 2900 万台以上の AT/CVT 製品を生産してきました。特に CVT においては、2023 年までに累計 6000 万台を生産しました。ジャトコの CVT 製品は、良い燃費、快適な運転性能、スムーズな走行性能を兼ね備え、世界中のお客様から高く評価されています。

会社名 ジャトコ株式会社

事業内容 自動車用変速機、電動パワートレインおよび部品の開発・製造・販売
株主 日産自動車 (75%)、三菱自動車工業 (15%)、スズキ (10%)



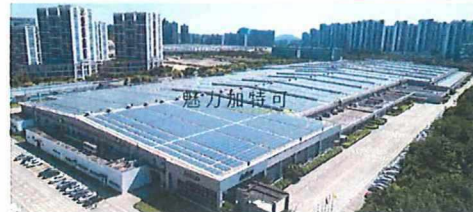
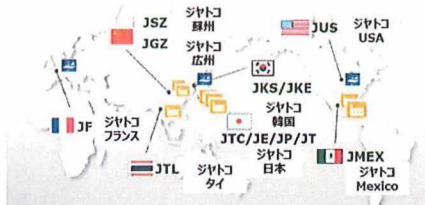
設立 2007年4月13日

生産機種 中型FF車用ベルトCVT；小型FF車用前置変速機付CVT

従業員数 1221人（2024年2月29日）

生産能力 120万台/年

主要客先 東風日産東用車公司



ジャトコ（広州）自動変速箱有限公司（以下、ジャトコ広州と略称）は、ジャトコが 2007 年に中国広州に単独出資（資本金 7500 万ドル）で設立した生産拠点であり、2009 年から量産を開始しました。年間生産能力は 120 万台です。ジャトコ広州は、自動車用変速機および関連部品を主に生産しており、主要製品には「Jatco CVT7」、「Jatco CVT8」、「Jatco CVT7 W/R」、「Jatco CVT-X」などが含まれます。2023 年までに累計 1000 万台以上の CVT を生産しました。ジャトコ広州は生産以外にも、研究開発、市場調査、市場の品質管理と保証、営業などの機能を持ち、中国市場の需要に迅速、柔軟に対応できる体制を構築しています。

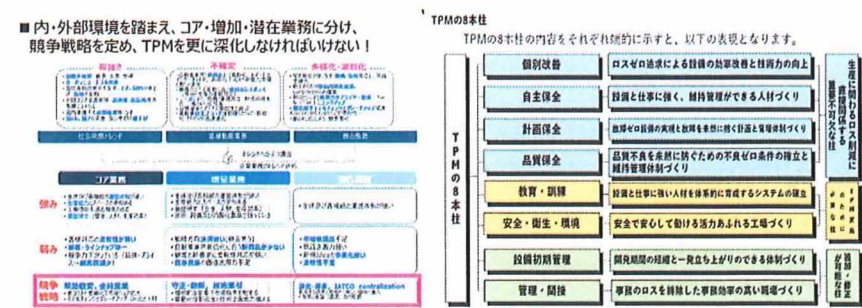
ジャトコ広州の敷地面積は 15 万平方メートル、現在の従業員数は 1138 人であり、うち現地従業員数 1126 人、日方従業員数 12 人です（2024 年 10 月 31 日時点）。総経理室の下には管理部門、財務部門、生産部門、品質技術センター、内部監査室があります。

ジャトコ広州は、ジャトコグローバル独自の生産方式「JEPS」（JATCO Excellent Production

System) を採用しており、原材料の調達、加工、組立、検査から出荷までの在庫、リードタイムが見える化し、すべての無駄を排除し、市場の需要変化に柔軟に対応しながら、品質、コスト、納期などにおいて世界をリードする生産体制の構築を目指しています。

二. マイルストーン

TPM は JEPS 基盤強化の 1 つとして、JATCO グローバル全拠点共通な活動として取り組んでまいりました。JGZ は FY11 に TPM を導入し、同年、要因系活動として TPM 活動をスタートいたしました。近年、中国及び国際外部環境は変動性、不確実性、複雑性、曖昧性になっており、社会発展トレンド、お客様の需要変化、競合環境の側面から JGZ の強みと弱みを活用し、競争戦略を立て、TPM 活動で戦略実現に貢献していくことを上位方針で明確にしました。FY21 に TPM 再構築として、8 本柱活動のキックオフを実施、事務局を設立、モデルラインを設定して活動を開始しました。更に FY23 までは 8 本柱の浸透教育、管理職の率先実践、BM 活動を実施して TPM への理解が深まりました。FY24 社方針で「TPM 賞を見据えた基盤強化」を定め、より一層全員参加と浸透を行いました。その結果、8 本柱の活動が徐々に安定し、特に自主保全活動はモデルライン STEP3、STEP4 を取得などの有形効果以外に、人財育成とか社員満足度 UP にもつながりました。FY25 以降は更に発展し、TPM アワードをチャレンジしていくと同時に、会社体質を強化していくことを目指して取り組んでおります。

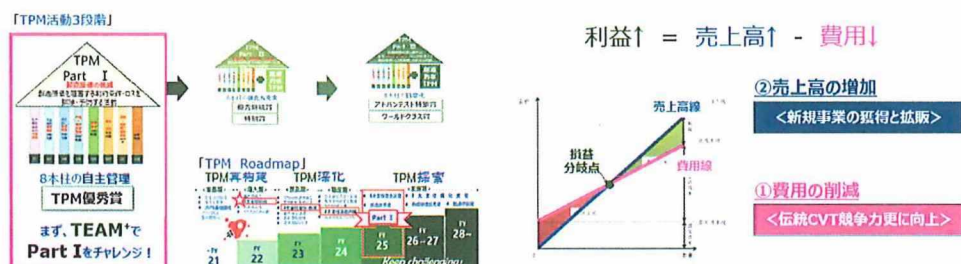


三. 獲得した利益

全員参加の TPM を通し、顕著な成果が得られました。例を挙げて説明しますと、P（生産性）では、ドカ停発生件数は 73%減の目標を掲げ、年度目標を過達するよう取り組んでおります。MTBF と MTTR もキックオフ時に比較すれば 40%改善できました。Q(品質)については長年 1 桁 PPM の納入クレームの実績を保ちつつ、「ゼロ ディフィクト」を目指し、品質保証だけではなく、工程で品質を作り込むという品質保全のコンセプトを理解しながら活動しております。C(コスト)では、内製台当たりコストという指標を会社 KPI 上で設け、コストを各費目に分解し、構造を明確にしております。

近年の生産台数の影響を受け、比例費の削減はもちろん、継続しながら固定費削減についても、積極的に沢山の改善アイデア発掘に取り組んでおり、収益増加の為に全社員の力と知恵を合わせて、引き続き頑張っております。安全、品質、コスト、納期など厳守しながら、環境にやさしい会社を目指し、多くの社会貢献活動や、二酸化炭素の排出量や廃棄物量削減にも力を入れています。

■ TPM活動3段階を指針に、FY25 Part I-TPM優秀賞を目指し、儲けるTPMを通して、儲ける企業体質構築に寄与する！ 「儲けるTPM」視点で考え直し、2つのアプローチで取組んでいく
→①コストの低減 ②売上高の増加



四. 生産におけるキーポイント

全員参加は JGZ-TPM 戦略中の重要なキーワードです。8 本柱をキックオフして以来、TOP 層から管理職が先頭に立ち、全員参加の定義、手段、リソースなどを検討し、自ら実践しながら、全社員に呼びかけました。皆さんが知恵を出し合っ、全員参加に下記 3 つを重要な側面として位置付け活動を

展開することになりました。

1. やる気（従業員自分から進んで何かをしようという意欲）が湧く活動

例：TOP 層率先躬行で設備の初期清掃を実施し、激励制度で問題発見と解決を促進しております。

2. やる腕（やるだけの実力を身に付ける）を磨く活動

例：TPM8 本柱間教育実施、専門知識ツールで問題解決し、柱間の相互支持などを行っております。

3. やる場（役割を果たすべき範囲を明らかにする）を与える活動

TPM 日を設定して、全員主役で TPM 実施し、更に標準類の作成と最適化を図って改善しております。また、TPM に関する技能競技大会もオリジナルで実施し、人材育成の加速を図っております。



五. 実績 *《TPM 効果指標シート》

区分	指 標	単位	TPM再構築キックオフ時 (21年3月)	年度目標 (25年3月)	申請時 (24年11月)	年度実績見込み (25年3月)	
P	設備総合効率	%	87.30%	90.30%	90.30%	90.30%	
	ドカ停件数	件/年	421	112	74	111	
	MTBF (平均故障間隔)	分	663	1000	934	1000	
	MTTR (平均修復時間)	分	126	73.6	74.4	70	
Q	工程内不良率(月平均)	ppm	652	650	536	483	
	納入クレーム率	ppm	7.4	6	7.7	6	
C	内製台当たりコスト (AVO)	台/元	835	800	802	800	
D	お客様未納件数	件	0	0	0	0	
	完成品在庫日数	日	1.5	1.4	1.4	1.4	
S	労働災害 (休業) 件数	件/年	1	1	1	1	
	労働災害 (不休) 件数	件/年	0	0	0	0	
	労働災害度数率	-	0.25	0.5	0.68	0.41	
M	改善提案件数	件/人	2	2	1.5	2.2	
	特種作業資格取得人数	人	377	596	543	596	
	《モラール指標》EM Survey Score	点	90	Global平均レベル以上	91	92	
	《モラール指標》QM Survey Score	点	93		94	95	
E	台当たりCO2排出量	KG/台/年	55.4	51.1	51.7	51.1	
	工具廃棄物削減量	トン/年	7.47	46.64	48	56.2	
その他	無形効果	-	・個別の柱の活動 ・TPM専門知識が不足 ・設備7大ロスがメイン ・3つ濡れが多かった ・重複修理など文句が多かった				・8本柱の形で全員参加 ・TPM専門知識・意欲を強化 (各柱人材の育成) ・16大ロスでロスを洗い出して徹底的に改善し、生産性UPに繋がった ・3濡れが明らかに減少、現場が綺麗になった ・作業が楽になり、チームワーク&社員満足度も向上した

会社紹介文は以上となります。